

# 土が衣食住に介在

## 農耕は穏やかな風化期に

人類はその食料の95%以上を土に依存している。食料に限らず衣食住のほとんど全てが土を経て創られたものである。人間の生き方の様式を「文化」とするならば、人が住んでいるその土地の土の性質が文化に反映されるのは当然のことだろうと思う。

と風化作用を経て土には農耕や牧畜が人間の生業となった。

生は「土」と「日本古代文化」

それぞれの風化過程で

用しえない。

なある時期しか人間は農耕、牧畜用として土を利

（博友社、1991）のなかで、過酷な風化作用として寒冷な針葉樹林地帯における「ポドソル土風化」、高温多雨の熱帯地域における「ラトソル風化」、砂漠地帯における「砂漠土風化」がある。そしてそれらの中で最も穏やかな風化過程が存在し、そこで

土はその最終的な形である「ポドソル土」「ラトソル土」「砂漠土」へと変化していくが、この3種の土の相互の間と風化の中間的な時期に相当する土壌のみが人間をはじめ生物の利用可能な土壌であると述べている。すなわち、土が生まれてから死にいたるまでの適当

帯と熱帯の森林植生を支持している。どちらの場合も樹木は土壌表層に堆積した有機物層との間で養分を循環させており、それ以下の土壌層位は酸性と養分不足により作物生産には適していない。熱

### 土壌の最終系は3種

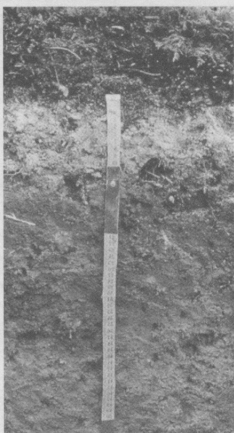
岩石は地表に現れたあ

れらの中間に穏やかな風化過程が存在し、そこで

なわち、土が生まれてから死にいたるまでの適当

帯の森林では再生を妨げ

ない範囲の焼畑農業のみが可能である。砂漠土壌は水分不足と養分不足があいまって植生を支える



ポドソル土 (左)、鉄アルミナ質土壌 (中)、砂漠土壌 (右)

こと自体が困難である。

## 水田が日本の文化

藤原氏は人間の文化が

それぞれの地域の土壌に大きく影響を受けているとし、ポドソル土文化、赤黄色土文化、黄土文化、

草原土文化など土壌の種類と対応した各種の文化の存在を例証したが、日本の文化に大きく影響を



山麓の上部まで400年近くも続く岐阜県恵那市坂折の棚田 (2005年9月 著者撮影)